

平成21年（行コ）第261号 公金支出差止等請求控訴住民訴訟事件

控訴人 齋田友雄外17名

被控訴人 群馬県知事外1名

証拠説明書（甲B161）

2012（平成24）年2月28日

東京高等裁判所 第11民事部 御中

控訴人ら訴訟代理人弁護士 福田 寿 男

号証	標目 (原本・写しの別)	作成 年月日	作成者	立証趣旨
甲B 161の1	意見書 写	平成23年 9月7日	新潟大学 名誉教授 (河川工学) 大熊孝	日本学術会議・土木工学建築学委員会 ・河川流出モデル基本高水評価検討等 分科会では、昭和22年カスリーン台風 の豪雨による利根川の洪水流出計算を 行ない、八斗島地点における最大洪水 流量の推定値は21,100m ³ /秒であり、実 際に流れたとされる最大流量17,000m ³ /秒とのあいだに「大きな差があること を改めて確認した」としているが、そ のピーク流量の低下の理由について明 確に論ずることはしていないこと。第9 回分科会の補足資料では八斗島上流の 氾濫量が推定されているが、この氾濫 量の推定は杜撰であり、多くの間違い があり、ピーク流量の低下を説明する ものでないこと。 昭和22年カスリーン台風の豪雨による 八斗島地点における実績流量は15,000 m ³ /秒程度であること。 等

甲B 161の2	日本学術会議・土木工学建築学委員会・河川流出モデル基本高水評価検討等分科会 第9回捕捉資料に示された 「昭和22年大水害の実相」氾濫図を補正して得た八斗島上流の氾濫図（原図）	写	平成23年 6月	国土交通省	大熊意見書（甲B161の1）の図3 国土交通省が、日本学術会議・土木工学建築学委員会・河川流出モデル基本高水評価検討等分科会第9回に捕捉資料として提出した図面 国土交通省が、カスリーン台風の八斗島上流域の浸水被害の状況を推定したものの。
甲B 161の3	第9回分科会捕捉資料の氾濫図と昭和45年作成の氾濫図を地形図に転写した図	写	平成23年 9月	控訴人代理人弁護士 只野靖	大熊意見書（甲B161の1）の図7 甲161の2を、5万分の1の地形図に縮尺を考慮して青色で転写し、併せて、昭和45年に作成された氾濫図（「利根川上流域における昭和22年9月洪水（カスリーン台風）の実態と解析」甲B58の図8-27）を赤色で転写したものの。
甲B 161の4	昭和二十二年九月十五日 キャサリン台風の記録 群馬県佐波郡芝根村五料地区	写	昭和62年 11月30日 発行	大沢素治 編集	大熊意見書（甲B161の1）の図6の出典元 群馬県佐波郡芝根村五料地区在住の大沢素治氏の編集にかかる、カスリーン台風の記録。 玉村町から芝根村にかけての実際の氾濫は、水深が3mに達するのは、烏川沿いの一部の地域であり、ほとんどが床下浸水程度であること。 図3（甲161の2）では、玉村町のほとんどが浸水したことになるが、図6では玉村町の半分以下しか浸水していないこと。